

- 2面 第1回内航二団体／全内航 交渉委員会  
3面 関東地区闘争委員会・決起集会  
4面 九州郵船創立100周年記念祝賀会  
(九州関門)

# 船員しんぶん

◆ホームページアドレス <http://www.jsu.or.jp> ◆Eメールアドレス [kaiin@jsu.or.jp](mailto:kaiin@jsu.or.jp)  
全日本海員組合発行 第3016号 (昭和25年8月24日第三種郵便物認可)

2023年(令和5年)  
3月5日  
本紙は毎月5・15・25日発行  
〒104-0053 東京都中央区  
晴海4丁目7番28号  
ホテルマリナーズコート東京内  
全日本海員組合本部  
発行人 齋藤 洋  
TEL 03-5410-8329  
FAX 03-5410-8337  
定価 1部 50円  
(組合員の購読料は組合費に含む)

2023年度労働協約改定

## 海員春闘

# 中央交渉スタート

日本カーフェリー労務協会・内航二団体・全内航

海上労働者の生活が破綻しないよう  
業界の将来を見据えた **誠意ある判断を求める**

3月1日、13時30分より、海員福祉研修会館(ホテルマリナーズコート東京)で、日本カーフェリー労務協会との第1回交渉(呼称「日本カーフェリー交渉委員会」)が開催され、世界的規模の急激な物価高に、労働者の生活防衛をどうするのか注目を浴びる海員春闘の中央交渉が始まった。  
海員組合と各船主団体(日本カーフェリー労務協会・内航二団体・全内航)で行われる労働協約改定の中央交渉は、わが国の船員社会の賃金水準を引き上げるけん引役としての役割を果たしているが、今次春闘を取り巻く社会背景は、昨年とは大きく異なり、長引くコロナ禍に加え、ロシアのウクライナ侵攻による国際経済の混乱、急激な物価高からの生活防衛など、労働者の生活が破綻することがないよう、また、日本の海上物流を中心とした経済活動が停滞・破綻しないよう交渉の舵取りは難しい。日本の船員社会と海運業・水産業界の将来を見据えての船団側の誠意ある判断が求められる。



松浦満晴組合長のあいさつ



日本カーフェリー交渉委員会(右が組合側)

### 第1回日本カーフェリー交渉委員会・概要

交渉委員会は組合側幹事の司会で始まり、労使双方の交渉委員を確認した。船団側を代表して小笠原朗会長、組合側を代表して松浦満晴組合長が、それぞれあいさつした。

交渉委員会は組合側幹事の司会で始まり、労使双方の交渉委員を確認した。船団側を代表して小笠原朗会長、組合側を代表して松浦満晴組合長が、それぞれあいさつした。労務協会の構成会社の確認を行い、「有効期間」および「例外規定」については労使双方の申し入れ事項であり、船団側も特段の異論はないとしたことから、仮合意とした。交渉では組合側より、期限引き続き、日本カーフェリー内自主円満解決に対する考え

昨今の物価高騰や後継者確保の観点からも大幅なベアが必要不可欠であることから、前向きに検討を行い、次回交渉に臨むよう求めた。  
そのほか船団申し入れのうち、「時間外労働」について、組合側より、船員法改正を逆手に取り、割増手当の算定となる時間外労働を削減しようとする改悪要求であることから、即時取り下げを求めたものの、船団側は一度持ち帰り、取り下げの方向で検討したいとしたことから、十分検討するよう求めた。  
最後に、次回交渉を3月6日13時30分より、ホテルマリナーズコート東京で開催することを確認し、14時40分に第1回交渉委員会を終了した。  
この後、15時より内航二団体、16時20分より全内航との、令和5年度第1回労働協約改定交渉委員会を開催した。

## 中央交渉は日本の船員社会の賃金水準引き上げけん引役の役割

本組合としても、物価上昇に対応できる十分な賃上げにより労働条件の改善を図り、労働者が安心して暮らせる社会を構築しなければならぬと考えており、そのことがひいては消費の拡大に繋がり、国内海運の発展に寄与するものと確信しております。

これまで築き上げてきた労使の信頼関係に基づき、期限内円満解決に向けた真摯な協議をお願いし、組合を代表してのあいさついたします。

方について質したところ、船団側は異論ないとの考えを示した。また組合要求については、厳しい状況であるが、労働力確保のため真摯に検討し、対応したいとした。これに対し組合側は、総論的な話ではなく、今次交渉は

方について質したところ、船団側は異論ないとの考えを示した。また組合要求については、厳しい状況であるが、労働力確保のため真摯に検討し、対応したいとした。これに対し組合側は、総論的な話ではなく、今次交渉は

さて、世界情勢は、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化やOPECプラスの協調減産などによる原油価格の高騰、米中貿易摩擦問題、コロナ危機をきっかけとした中国経済の底割れ、金利引き上げを誘導する金融政策など、先行き不透明な状況にあります。また、日本経済は、未だ収束の見えないコロナ禍において、原油価格の高騰、急激な円安による電気・ガスをはじめとした光熱費や食料品など生活に直結する大幅な物価上昇が、国民の生活を圧迫し、個人消費も減退するなど景気回復を阻んでいます。

一方、少子高齢化が進み、あらゆる産業において労働力不足は顕在化している中、海運産業においても、労働時間の把握・管理、健康確保など船員の働き方改革により、後継者確保に向けた取り組みが進められています。

カーフェリーの現状は、長年行われてきた道路偏重政策や燃料油価格の高騰、環境問題など対応しなければならぬ多くの諸課題があります。が、モーターシフトの推進による貨物輸送量の更なる増加に加え、新型コロナウイルスの水際対策の緩和や国の旅行支援制度により旅客輸送量の増加も期待が寄せられています。

カーフェリーの現状は、長年行われてきた道路偏重政策や燃料油価格の高騰、環境問題など対応しなければならぬ多くの諸課題があります。が、モーターシフトの推進による貨物輸送量の更なる増加に加え、新型コロナウイルスの水際対策の緩和や国の旅行支援制度により旅客輸送量の増加も期待が寄せられています。

### 松浦満晴組合長のあいさつ

今次交渉においては、これまで以上に大幅なベースアップの機運が高まる中で、陸上とは違い海上労働という特殊な環境下で従事している組合員に対し、正当な評価となるよう高水準の賃金改善を実現し、魅力ある業界にしていかなければなりません。



# 2023年度労働協約改定 第1回中央交渉・概要

3月1日13時30分より日本カーフェリー労務協会、15時より内航二団体、16時20分より全内航と、令和5年度第1回労働協約改定交渉委員会を、ホテルマリナーズコート東京で開催した。



日本カーフェリー労務協会  
会長 小笠原朗



日本カーフェリー交渉委員会(右が組合側)



船主団体 一洋会  
会長 宮崎昇一郎



内航二団体との交渉(右が組合側)



全内航  
会長 関田拓生



全内航との交渉(右が組合側)

日本カーフェリー交渉委員会  
概要は一面に掲載

## 内航二団体

交渉委員会は組合側幹事の司会で始まり、労使双方の交渉委員を確認した。船団側を代表して宮崎昇一郎会長(一洋会)、組合側を代表して松浦満晴組合長が、それぞれあいさつした。

次に交渉委員会運営を確認の後、組合要求に関する趣旨説明を行い、船団側より、今次労働協約改定に関する申し入れはないとの報告がなされた。

交渉では組合側より、組合要求に対する考え方を質したところ、船団側は会社が十分な利益を上げられておらず、先行きも不透明な状況ではあるが、組合要求を真摯に受け止め、検討したいとした。

これに対し組合側は、大幅な賃金改善は現場組合員の非常に強い要望であることを十分に受け止め、内部検討を行い、次回交渉に臨むよう主張した上で、基本給以外の組合要求についても、真摯に検討を行うよう求めた。

また、期限内自主満期解決ならびに年間臨時手当の同時決着について、船団側は異論ないとした。

最後に「有効期間」および「例外規定」医療体制の向上に関する協定書の整理明確化」について仮合意とし、次

回交渉については3月7日13時30分より、ホテルマリナーズコート東京で開催することを確認し、16時に第1回内航交渉委員会を終了した。

## 全内航

交渉委員会は組合側幹事の司会で始まり、労使双方の交渉委員を確認した。船団側を代表して関田拓生会長、組合側を代表して松浦満晴組合長が、それぞれあいさつした。

次に交渉委員会運営を確認の後、組合要求に関する趣旨説明を行い、船団側より、今次労働協約改定に関する申し入れはないとの報告がなされた。

交渉では組合側より、組合要求に対する考え方を質したところ、船団側は昨今の物価高騰を踏まえれば、船員の労働条件・労働環境を改善しなければならぬことは理解しており、各業界の動静を踏まえ、期限内解決に向けて検討したいとした。

これに対し組合側は、今次要求については、賃金改善必要最低限の要求であることを十分に理解した上で、内部検討を行い、次回交渉に臨むよう求めた。

また、年間臨時手当交渉の同時決着について、船団側は異論ないとした。

最後に「有効期間」および「適用除外」については仮合意とし、次回交渉日程については3月7日15時より、ホテルマリナーズコート東京で開催することを確認し、17時に第1回全内航交渉委員会を終了した。

2023年3月5日

中央選挙委員会 議長 齋藤 洋

## 第39期全国委員の当選告示

一、2023年2月25日付で告示した第39期全国委員補充選挙については、立候補の受け付けを締め切り、立候補者の資格審査を行い、候補者が適格であることを確認した。

対立候補者がいない立候補状況であることから、全国委員選挙規則第25条D項により投票を略し、当選人を次の通りとする。

### 《企業区・企業単位》

#### 053 新潟地区組合員

当選人 佐藤 智矢 佐渡汽船 一等航海士  
107 国道九四フェリー (補充定員1名・立候補者1名)  
当選人 宮部 芳郎 国道九四フェリー 陸上職員

## 第39期全国委員の資格喪失告示

一、次の者は、規約第47条A項6号により全国委員資格を喪失したので告示する。

《地方区・地方単位》  
05 中・四国 柘植 雅也

## 第39期全国委員・補充選挙の告示

規約第45条および全国委員選挙規則第25条に基づき、第39期全国委員補充選挙の実施について次のとおり告示する。

一、補充選挙を行う選挙単位と補充定員

《選挙単位コード・単位名》  
地方単位 05 中・四国 1名

二、補充選挙の実施日程  
立候補届出期間 2023年3月5日より  
候補者告示 2023年3月14日まで  
投票期間 2023年3月15日  
2023年3月15日  
2023年4月14日まで  
2023年4月15日(予定)

三、補充選挙の被選挙人  
(1) 地方区  
全国委員選挙規則第25条A項により、補充選挙告示日に当該地方単位の支部機関に配属されており、選挙資格を有する執行部員とする。

四、立候補の届け出  
立候補をする者は、全国委員選挙規則付表の一に定める様式に基づき立候補届を担当地区選挙委員会へ提出すること。

五、補充選挙の実施に関する問い合わせ先  
中央選挙委員会事務局(総務部) 以上



母貝祖百因米協約改定闘争総決



組合本部を代表して田中伸一組合長代行のあいさつ

## 関東地方支部 要求貫徹に向け**決起集会**



高宮成昭関東地方支部長のあいさつ



全日本海員組合  
http://www.jou.or.jp E-mail: kashin@jou.or.jp

**日本の未来! 支える海が  
職場の我らの結束力!**

2023年 協約改定闘争 全日本海員組合

**コロナ禍を越え  
満額回答に向けていざ進もう**

2023年 協約改定闘争 全日本海員組合

**産別団結を力にして勝ち取れ!  
今こそ海上労働運動フルパワー**

2023年 協約改定闘争 全日本海員組合

**物価上昇の波をベースアップの波で  
打ち消そう!**

2023年 協約改定闘争 全日本海員組合

**明るい未来のために  
一致団結 海員春闘**

2023年 協約改定闘争 全日本海員組合

**みんなで団結!  
つかめ満額回答!**

2023年 協約改定闘争 全日本海員組合

2023年  
海員関東労働協約  
改定闘争総決起集会  
人数を絞り、  
ナビオス横浜で開催

ひな祭りの3月3日、午後6時からナビオス横浜において、2023年度労働協約改定闘争勝利に向けた総決起集会を開催した。

コロナ禍で昨年開催できなかった団結イベントであるが、今年は人数を絞り42人が出席、コロナ対策を万全にした上での開催となった。

関東地方支部団結イベントは、菅野直樹関東地方支部次長が、今年海員組合の永田宏智会長（川崎汽船職場委員）の発声で春闘勝利に向けた乾杯を行った。今年の海員春闘のボースタースローガン「賃上げの波に乗れ! 満額回答だ! 船員

の未来に光あれ!」は、永田会長が応募し採用されたもので、乾杯の音頭はこのボースタースローガンを唱和し、会場が一丸となって団結を深めた。

また、ステージの海員旗の両サイドには、10本の関東地方支部オリジナルの春闘スローガンが掲げられ、物価高騰が続く中で、現場組合員の雇用と生活を守るため、今春

の未来に光あれ!」は、永田会長が応募し採用されたもので、乾杯の音頭はこのボースタースローガンを唱和し、会場が一丸となって団結を深めた。

また、ステージの海員旗の両サイドには、10本の関東地方支部オリジナルの春闘スローガンが掲げられ、物価高騰が続く中で、現場組合員の雇用と生活を守るため、今春

を届けよう!「春闘」部門ごとの決意表明では、外航部門の佐々木崇職場委員、国内部門の大沼賢広職場委員、水産部門の深川隼輔職場委員の3人が、それぞれの部門を代表し、力強い決意を述べた。

決起集会の最後は、大喧嘩、関東地方支部長代行が、今春労働協約改定闘争勝利を誓う閉会のあいさつを述べ、団結イベントを締めくくった。



佐々木崇職場委員の決意表明(外航部門を代表)



大沼賢広職場委員の決意表明(国内部門を代表)



深川隼輔職場委員の決意表明(水産部門を代表)

現場組合員の期待に応えるため**一致団結して頑張ろう**





## フェリーきずな



2月15日、九州郵船株式会社の創立100周年を記念する祝賀会が開催され、多くの関係者が出席した。

はじめに主催者を代表して九州郵船株式会社の竹永健二郎代表取締役社長から「第一次世界大戦後間もない、大正9年に創業して以来、100年もの長い間、航路事業を行ってこられたのは、ご臨席の皆さま方や地元関係者の皆さまの温かいご支援とご厚情の賜物で、心から感謝申し上げます。諸先輩方の努力で築き上げてきた当社を一段と発展させるべく、一人一人が意識改革とチャレンジ精神を常に念頭に置き、効率化・活性化を図り、より一層のサービス向上に努めていきます。この100周年を契機に、心新たに、安全運航を基本と

し、社業にまい進し、さらなる飛躍を目指し、香岐・対馬両島の振興へ力尽くす覚悟を持ち、今後もご臨席の皆さま方のご支援とご協力をお願いします」とあいさつを述べた。

その後、100周年を祝して、博多伝統芸妓の博多券番による祝舞や、100年史DVDが披露され、最後に船員を代表し、古川賀津彦船長のあいさつがあり「諸先輩方の努力で築き上げてきた当社をさらなる100年が積み上げられるよう、一人一人が目的意識を持ち、安全運航に努めたい」と締めくくった。



ダイヤモンドいき



冷たい風が吹いて空が晴れわたる1月27日、福島県唯一の国際貿易港、小名浜港に、福島汽船株式会社所属の新造船タグボート「開成丸」が就航した。

開成丸は、兵庫県・神戸にある金川造船所で造られ、ドックを出発、神戸港から小名浜港に回港された。これからは、小名浜港に出入港する外航船や大型船の離着岸作業を中心に、港の縁の下力持ちとしての作業に就く。

また、機動力の高いタグボートの能力を活かし、港内での火災や災害時に備え、活動できる体制も組んでいる。

福島汽船所属のタグボートは、福島県の小名浜港と相馬港、原町港、広野港などの各港において、港の安全を守る業務に活躍している。

## 九州郵船株式会社

100周年心新たに  
安全運航誓う

全国発信記事

九州関門  
地方支部  
＝発信

船員を代表して、あいさつを述べる古川賀津彦船長(中央)

## ヴィーナス



## うみでらし



## 新造船

## 福島汽船株式会社

## 開成丸が就航

全国発信記事

小名浜  
支部  
＝発信